

昨年11月から12月にかけてのイタリア旅行は私の人生でまたと無い良い機会だと思ひ、出かけました。友人のジャンナが娘のマリアの病氣療養中にも拘らず呼んでくれたからです。往きは、一人旅経験の無い私を心配し、娘の敦子が同行してくれました。11月19日成田発。ローマ空港ではマルガリータが出迎えてくれました。治療のため病院の近くに家を借りていて、ビルの3階に部屋がありました。階段を挟んでイタリア人家族が住んでいました。ちなみに私はそこでは宿泊税を払っていないのでアパートの住民が怒っていると後で聞きました。ローマの最初の夕食はジャンナを迎えながらマルガリータとの4人で、トレビの泉近くのレストランで焼き魚のヘルシーな遅い夕食を摂りました。翌日は3人でシシリー島へ。パレルモのホテルで2泊。午後2時頃着。夕食にかけ近辺を散策。雨が降り出し、日本語のガイドブックに載っていた食堂風なところで夕食。翌朝は、2コースある屋根付き市内観光バス(20時間以内乗り降り自由で20ユーロ)に乗り、雨が降ったり止んだりする市中を見物し、通り沿いの建物や海岸線をビデオに撮った。ヴィクトリア・エマニュエル2世の建物の上には雨上がりの虹が架かり感激でした。

次の日は前述のバスの有効時間を利用して、2コースすべてを制覇。そして市内バスを利用して避暑地へ。さすがに暖かくコートは脱ぎました。オフのため、ひなびた静けさでした。テントでは獲れた魚をさばいて売っていたり、おじさん達は時間つぶしのようにカード遊び。つかの間の(おそらく1時間位)滞在でしたが漁民の生活が垣間見られました。帰りは別のルートになり夕立にも祟られたので、カフェで一休み。パザールの梯子をしながらホテルに預けた荷物を受け取り、LCCの帰りも安いジェットスターでローマに戻りました。娘が帰るまでの2日間は、親子でヴァチカン見学をし、7年前は上れなかった屋上の売店で日本人のシスターに出会えたり、乗りなれない地下鉄やバスを乗り継いで買い物行脚。小さなアウトレットでジーンズを見つけ試着、値段を聞いたら90ユーロと高いので買わず、でも数時間してまた戻り、娘に聞いてもらったら半値以下だったので購入。私の聞き間違えか吹っかけられたかは不明。娘が帰国した当日、とんぼ返りでテルミニ駅にナポリとミラノ行きの列車の切符を買いに行きカードで払いました。前もって買わないと当日では買えない場合があり早めに買うほど安いので。トラベラーズチェックも利用できないようなので現金に換金。途中では最古の教会を見学できました。

11月29日楽しみにしていたナポリに着いたら又も雨降りの後。ホテルは、古びた入り口の門に比べ中に入ると明るいこれぞナポリと感じるしゃれたホテル。どんよりした天気の中、海岸に向かいヌオーヴォ城を見学。中で結婚披露宴の

終盤を録画。又、厚いガラス越しの床下に遺跡を見学。この後ガレリアに着いたら中国人らしき花嫁・花婿2組とイタリア人カップルの、ちょっとした撮影会。ボンベイには雨で列車が動かず、変更してナポリ港へ。土砂降りに閉口しながらも到着。沖合いに停泊中の船が見えました。雨で列車が動かないとローマに帰れないので急いで引き返し、ホテルに預けた荷物を取り午後2時頃には列車に乗りナポリを後にしました。

12月3日のミラノ行きでは、フレンツェ1泊の後、ピサの斜塔に上りましたが、またもや雨。全身ずぶ濡れ状態で展望台まで靴音を立て、唯一人黙々と大理石の階段を上り詰めました。私自身が強風で飛ばされそうで、恐々撮影、鐘楼がありました固定されていて鳴っていない気がします。ミラノではジャンナの甥のファン・カルロと落ち合い、彼らのパーティには参加せず、アパートへ行き一泊させてもらいました。部屋は2L+DKを友人とシェアしていましたが、ゆったりとしていて豪奢に感じました。朝帰りて広いリビングのソファで寝たため風邪引きのカルロを起こして市内見物。昼食後、地下鉄で見本市会場へ。入場料は取られず、アジア、アフリカ、南米が一緒にゾーンとイタリアの食品を見てきました。中2日空けてアッジジへ。列車で言葉を交わしたエジプトからの牧師さんと連れ立ち山の上から教会を訪ねながら下ってきました。昼食後暫くして帰りの時間を約束して分かれしました。会えたのですが別々の車両になりました。テルミニに向かうほどに学生や帰宅者で込んできました。降り際にはエレガントな女性歌手とジャンナの通訳で15分位の会話を楽しみました。

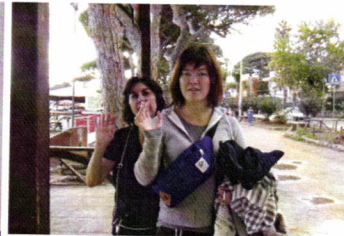
他には、観光客が行かないデパートのようなスーパーで食事をして、食品やワインの量り売りを購入し、さよならパーティをしました。マリアが病氣以前から付き合っていた恋人のアレハンドロが私が帰る数日前にガテマラから転勤願いで来て結婚しました。マリアはガテマラで身内のパーティを3月にしてから4月にイタリアに療養に来ました。結婚式は今年の年末に教会でします。

どの観光地も外国人よりイタリア人のほうが多かったように思えます。教会が数多くあり、クリスマスシーズンでもあり、宗教に根ざされているのでしょう。

7年前も親子旅行を娘からプレゼントされ、ミラノからローマまでのバス旅行を楽しみましたが私がイタリアの何処を好きなのかと尋ねられたら、フード、家具のシンプルなフォルム、田園風景、歴史建造物等でしょうか。ジャンナは日本に住むほうが好きだといひます。まず安全である(スリ等に出掛けるたびに警戒しなくて良い)、生活が便利。町が綺麗。イタリアは道が凸凹、おまけに犬の糞はあちこち、ゴミ捨て場のコンテナはあふれかえり、電車を乗り過ぐすと戻るのが面倒等です。其の通りだと思いました。



後列左より マリア、マルガリータ 前列左より 筆者、ジャンナ



## 編集後記

今号は、前号と同じく8ページ建てになりました。先進国の仲間入りをしたと言えるメキシコでも、草の根の援助・支援活動をしているフィジーでも、「専門家」の権限外の「資金問題」に悩まされながらミッションを達成するために努力している工藤、田中両氏の姿が報告されています。経営者の目を通じて「専門家」を論じた谷保氏、カナダで自然の神秘を感じ自然との共存・共生を論じた田端氏の主張も割目すべきでしょう。一方、精力的にイタリアを旅行した小泉氏の手記は、異文化遭遇など大げさな表現ではなく楽しめます。いずれも長文の力作で、文章を削るのに苦慮しました。文字数が多い、字が小さくて年配者には読みにくい等のご不満もあるかと思いますが、寄稿者の熱情を行間に感じてご寛恕下さい。 大平一昭

## JICA帰国専門家連絡会かながわ会報 第21号

発行 2013年10月1日  
 発行者 JICA帰国専門家連絡会かながわ(JECK)  
 事務局 横浜市中区新港2-3-1  
 JICA横浜国際センター3F 国際協力連絡室内  
 (URL: <http://www.jeck.jp/>)  
 事務局長 肥後 照雄 (e-mail: [thigo@cb3.so-net.ne.jp](mailto:thigo@cb3.so-net.ne.jp))

編集委員会 植岡 龍太郎(編集責任)  
 大平一昭、佐藤満寿哉、小泉由紀子  
 印刷 横浜リテラ (URL: <http://www.yokohamalitera.com/>)  
 (e-mail: [info@yokohamalitera.co.jp](mailto:info@yokohamalitera.co.jp))  
 横浜市戸塚区上矢部1965-4